

「別紙 3」

ブレデンスケール

利用者氏名: _____ 評価者氏名: _____ 評価年月日:平成 年 月 日

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
| <p>知覚の認知 圧迫による不快感に対して適切に対応できる能力</p> | <p>1. 全く知覚なし 痛みに対する反応(うめく、避ける、つかむ等)なし。この反応は、意識レベルの低下や鎮静による。あるいは体のおおよそ全体にわたり痛覚の障害がある。</p> | <p>2. 重度の障害あり 痛みのみ反応する。不快感を伝える時には、うめくことや身の置き場なく動くことしかできない。あるいは、知覚障害があり、体の1/2以上にわたり痛みや不快感の感じ方が完全ではない。</p> | <p>3. 軽度の障害あり 呼びかけに反応する。しかし、不快感や体位変換のニードを伝えることが、いつもできるとは限らない。あるいは、いくぶん知覚障害があり、四肢の1, 2本において痛みや不快感の感じ方が完全でない部位がある。</p> | <p>4. 障害なし 呼びかけに反応する。知覚欠損はなく、痛みや不快感を訴えることができる。</p> |
| <p>湿潤 皮膚が湿潤にさらされる程度</p> | <p>1. 常に湿っている 皮膚は汗や尿などのために、ほとんどいつも湿っている。患者を移動したり、体位変換するごとに湿気が認められる。</p> | <p>2. たいてい湿っている 皮膚はいつもではないが、しばしば湿っている。各勤務時間中に少なくとも1回は寝衣寝具を交換しなければならない。</p> | <p>3. 時々湿っている 皮膚は時々湿っている。定期的な交換以外に、1日1回程度、寝衣寝具を追加して交換する必要がある。</p> | <p>4. めったに湿っていない 皮膚は通常乾燥している。定期的に寝衣寝具を交換すればよい。</p> |
| <p>活動性 行動の範囲</p> | <p>1. 臥床 寝たきりの状態である。</p> | <p>2. 座位可能 ほとんど、または全く歩けない。自力で体重を支えられなかったり、椅子や車椅子に座るときは、介助が必要であったりする。</p> | <p>3. 時々歩行可能 介助の有無にかかわらず、日中時々歩くが、非常に短い距離に限られる。各勤務時間中にほとんどの時間を床上で過ごす。</p> | <p>4. 歩行可能 起きている間は少なくとも1日2回は部屋の外を歩く。そして少なくとも2時間に1回は室内を歩く。</p> |
| <p>可動性 体位を変えたり整えたりできる能力</p> | <p>1. 全く体動なし 介助なしでは、体幹または四肢を少しも動かさない。</p> | <p>2. 非常に限られる 時々体幹または四肢を少し動かす。しかし、しばしば自力で動かしたり、または有効な(圧迫を除去するような)体動はしない。</p> | <p>3. やや限られる 少しの動きではあるが、しばしば自力で体幹または四肢を動かす。</p> | <p>4. 自由に体動する 介助なしで頻回にかつ適切な(体位を変えるような)体動をする。</p> |
| <p>栄養状態 普通の食事摂取状況</p> | <p>1. 不良 決して全量摂取しない。めったに出された食事の1/3以上を食べない。蛋白質・乳製品は1日2皿(カップ)分以下の摂取である。水分摂取が不足している。消化態栄養剤(半消化態, 経腸栄養剤)の補充はない。あるいは、絶食であったり、透明な流動食(お茶, ジュース等)なら摂取したりする。または、末梢点滴を5日間以上続けている。</p> | <p>2. やや不良 めったに全量摂取しない。普段は出された食事の約1/2しか食べない。蛋白質・乳製品は1日3皿(カップ)分の摂取である。時々消化態栄養剤(半消化態, 経腸栄養剤)を摂取することもある。あるいは、流動食や経管栄養を受けているが、その量は1日必要摂取量以下である。</p> | <p>3. 良好 たいていは1日3回以上食事をし、1食につき半分以上は食べる。蛋白質・乳製品を1日4皿(カップ)分摂取する。時々食事を拒否することもあるが、勧めれば通常捕食する。あるいは、栄養的におおよそ整った経管栄養や高カロリー輸液を受けている。</p> | <p>4. 非常に良好 毎食おおよそ食べる。通常は蛋白質・乳製品を1日4皿(カップ)分以上摂取する。時々間食(おやつ)を食べる。捕食する必要はない。</p> |
| <p>摩擦とずれ</p> | <p>1. 問題あり 移動のためには、中等度から最大限の介助を要する。シートでこすれずに体を移動することは不可能である。しばしば床上や椅子の上でずり落ち、全面介助で何度も元の位置に戻すことが必要となる。痙攣、拘縮、振戦は持続的に摩擦を引き起こす。</p> | <p>2. 潜在的に問題あり 弱々しく動く。または最小限の介助が必要である。移動時皮膚は、ある程度シートや椅子、抑制帯、補助具などにこすれている可能性がある。たいていの時間は、椅子や床上で比較的良い体位を保つことができる。</p> | <p>3. 問題なし 自力で椅子や床上を動き、移動中十分に体を支える筋力を備えている。いつでも、椅子や床上で良い体位を保つことができる。</p> | |